

在宅医療とリハビリテーションプログラム

平成 20 年 3 月 8 日 (土)

静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」11 階 会議ホール・風

15 : 30	開場 : 入場開始
15 : 45	開会 : 座長挨拶 パネリストの紹介 パネリストによる講演 宮島嘉津雄氏 「理学療法士の役割」 河本のぞみ氏 「作業療法士が在宅医療に貢献できること」 北野市子氏 「ST の役割について」 石垣泰則氏 「在宅医療とリハビリテーション」 質疑応答
18 : 00	終了 : 退場

シンポジウム 在宅医療とリハビリテーション

脳血管障害をはじめ、認知症、整形疾患、がん、内部障害等リハビリテーションの対象となる疾患は幅広く、在宅医療に占めるウェイトは患者の増加に伴い昨今大きなものとなっております。しかしながら、在宅リハビリテーションに取り組む医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はその需要に大きく立ち遅れているのが現状です。このたび勇美記念財団と共催で「在宅医療とリハビリテーション」のワークショップを開催し、在宅胃リハビリテーションを実践するリハビリテーション専門医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士それぞれの立場から、リハビリテーションの現場での課題や提案を議論する良い機会となりました。

200名を越す聴衆を集め、在宅リハビリテーションの有用性と具体的方法、リハビリテーションの理念と在宅医療のそれが共通する点、そしてリハビリテーションの真髄が在宅にある点、そして今後さらにこの分野においてエビデンスを確立する必要性が確認されました。

勇美記念財団と関係者の方々のご理解ご協力の賜物で今大会が盛会に終わることが出来たことに心から感謝申し上げます。

第10回日本在宅医学会大会
大会長 石垣泰則